

令和2年度 第1回江別市かわまちづくり協議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和2年11月4日（水） 14：00～16：00

場 所：江別市民会館小ホール

出席委員：小篠隆生会長、鴻野徹副会長、内田悟委員、町村均委員、高橋利光委員、
林匡宏委員、境珠美委員、藤原英大委員（計8名）

欠席委員：なし

事務局：江別市長、経済部長、経済部次長、商工労働課長・参事、観光振興課長、総務
部財務室契約管財課長、企画政策部政策推進課長、建設部管理課参事・主幹（用
地・渉外）、教育部郷土資料館長、建設部治水課長・主幹、商工労働課主査（2
名）、ほか3名

傍聴者：2名

会議概要

1 開会

2 委嘱状の交付

3 市長挨拶

4 委員の紹介

5 会長、副会長の選出

委員の互選により、小篠隆生会長、鴻野徹副会長を選出

6 議事（1）かわまちづくり協議会の目的と進め方について

事務局より資料2を説明

【質疑】

○町村委員

かわまちづくり支援制度は開発局と江別市が連携して実施する制度だと認識した。開発局では河川の安全対策に関連する部分を支援し、それ以外の部分については市が支援するという理解でよいか。

○商工労働課長

安全な堤防を作ることはもちろん国の方でやっていただくが、大きく分けて、川の面については国の支援を受けて整備し、市ではソフト面での支援が中心になると認識している。堤防の活用方法について、これからいろいろとアイデアを出していただき、国で担当する部分と市で担当する部分とを分けて、かわまちづくり計画を推進していく形となる。

○町村委員

支援事業では、どこかに負担が発生すると認識している。資料2で示されたそれぞれの他市の事例の予算の規模はどのくらいなのか。

○商工労働課長

それぞれの予算規模については詳細を承知していない。ハード・ソフト両面での支援ということで例示されているが、例えば、堤防に親水護岸をつくる際は国で実施し、散策路の上にベンチ等を置く際は市で行うなど、整備の内容に応じ、国と市とかわまちづくり協議会で相談しながら進めていく。

○小篠会長

参考資料の6に、河川管理者が支援できるハード整備は河川管理施設が対象と書いてある。河川管理者である国が支援できるハード整備は河川に関連するものであり、一方、市町村等は利活用に係る整備を実施することとなると読み取れる。

○高橋委員

堤防の利活用について、民間事業者が運営する事例があったが、この協議会で方向性について議論し、その方向性に沿った民間事業者を公募するという手順となるのか。

○商工労働課長

どのようにこの計画を推進していくか、また、整備後どのようにこの堤防を活用していくかもあわせて、協議会でぜひ検討していただきたい。どのような形で管理・運営を含めてお願いをするかは、検討結果によると思うが、紹介した事例にあるように、計画に合うような事業者や民間団体を募集して、運営してもらう手法もあり得る。他市の事例では、協議会そのものを運営母体としている例もある。

○小篠会長

誰が運営を行い、その資金はどうするのか、実行可能かということについては、我々が情報を有しているわけではないため、今後、様々な関係団体の方々とも情報を共有しながら、話を進める必要がある。そのためには、協議会だけでは機動力の面で厳しいため、ワーキンググループを設置して対応する。

先ほど、事務局からワーキンググループについて説明があった。まずは旧岡田倉庫の利活用や移転先が喫緊の課題であるため、この後で話があると思われるが、特定の事項について協議を深めるためのワーキンググループを随時開催しながら、かわまちづくりの運営方法や運営団体について総合的に議論することとなるのではないかと。

○林委員

まちづくりにはいろいろな手法がある。行政だけに任せておく時代ではない。いろいろな関係者が参加し、取り組んでいる事例が全国にはある。ワーキンググループでは具体的にいろいろな事例を確認しながら、江別ならではのスタイルを見つけて、進めていけばいい。そのような想いでこの協議会に臨みたいと考えている。

○小篠会長

参考資料上の全国の事例においても運営主体や方法は様々である。地域ごとのかわまちづくりや活用方法などについて勉強していく必要があると考える。

議事（２）旧岡田倉庫の利活用及び移設先について

事務局より資料３（１）～（５）を説明

【質疑】

○林委員

旧岡田倉庫の移設先候補地について、この場でメリットやデメリットについて意見を出すという意味ではないと認識してよろしいか。

○小篠会長

そのとおりである。次回の協議会で審議を行う。

○商工労働課長

市で考えている候補地に関する意見、利活用も踏まえた移設先地の考え方については、この場ではなく、手元に配付した用紙に各委員の意見を記載の上、期日までに提出していただきたい。

○内田委員

旧岡田倉庫の移設先地については、資料に記載の土地についてきちんと交渉し、移転する以外、現実的に方法はないのではないかと思う。今後もこの協議会で、ひとつひとつ細かな議論を行うのは時間の無駄ではないか。私の意見としては、もう選択の余地がないことについては、そのまま進めていただいたほうが良いように思う。

○小篠会長

この件について、事務局の方ではほかに候補地があるのか、情報の提供を願いたい。

○商工労働課長

市としてもいろいろな候補地を検討してきたが、堤防と一体としての活用を踏まえたかわまちづくり計画では、このエリアに移設することが一番適していると考えて提示した。利活用の方法によっては、この地以外の可能性もあるかもしれないが、市としては、最終的な検討結果としてこの候補地とした。

○小篠会長

確かに慎重な進め方ではあるが、市長がこの協議会で合意したことを基に進めていく方針だと認識している。

また、旧岡田倉庫における今までの活動等にかわまちづくり計画の中にどう取り込んでいくのかということも、移転先を考える上で重要な話になってくる。多くの意見をいただきながら議論することが大事であり、旧岡田倉庫の移転先は、かわまちづくり計画の内容を踏まえて考えましょうということをご理解いただきたい。

○町村委員

これまで庁内検討委員会で検討された中で、この資料に記載された候補地以外にも候補地はあったのか確認したい。

もう１点確認したいが、この資料では、旧岡田邸が今後も保存されると明確に記載されていないが、旧岡田邸はそのまま残るという認識でよろしいか。

○商工労働課長

移設先の候補地としては、農協の倉庫周辺や江別小学校跡地、郷土資料館横の空き地なども検討したが、やはり、舟運の歴史を残して後世に伝えることが、まさに市の指定文化財としての価値を残すことであり、移設先地を選定したさまざまな理由は資料の中でも説明している。

さらに、かわまちづくり計画の中でも非常に重要な要素になると考え、現在地の近くが最適であると結論が出たものである。

次に、旧岡田邸については老朽化しており、保存や修復について現段階で結論が出ておらず、説明できないことをご理解いただきたい。

○町村委員

理解はしたが、旧岡田邸と旧岡田倉庫の関係は切っても切り離せない。今後の活動を考えていく上で、どちらかしか使えない、又は、どちらも使えるというのでは、活動の幅や内容も変わってくるので、旧岡田邸の今後については大きな課題であると考えます。

○小篠会長

重要な指摘である。そのような視点で、運営や活動も含めた考え方について意見をお寄せいただきたい。

○藤原委員

資料上、説明のなかった白い部分の土地については買収や活用などの案はあったのか。

また、候補地に倉庫を移設した場合、車の搬入口として使用していた倉庫の裏側が狭くなるのではないかと感じるが、新しく整備される堤防が壁になるのか、なだらかな地形となるのかでイメージが違ってくる。

堤防の形状も考え、堤防との繋がりを踏まえた上で、このかわまちづくり協議会を進めていくものなのか。

○商工労働課長

資料3の地図上の白い土地については、具体的に利用する検討はしていない。

次に、堤防については、参考資料2の最後のページにあるように、なだらかな傾斜のついた形で整備されると聞いている。この協議会では、かわまちづくり支援制度を利用することによって、隣接した旧岡田倉庫も含めたハード整備をどのように行うのか協議していただくことを想定している。

○小篠会長

河川区域の管理者は開発局であり、その区域の整備は厳しく制限されている。しかし、本協議会で作成されたかわまちづくり計画が受理された場合は、民間団体を含めて、その河川区域内の利用が可能になると認識している。そうしたことを視野に入れてまちづくり計画を考えていこうという中、旧岡田倉庫が重要な役割を果たす可能性があり、どのような利活用がふさわしいかという議論になるものと考えている。

○林委員

河川空間も含め、誰がどう使うかを議論して、必要なことを共有していくことが大事である。先日、旧岡田倉庫では野外ステージも開催していたが、素晴らしい空間だった。地元の方が創意工夫でまちのシーンや景色を作っていくことが重要だが、誰がどう使うかを先に考えて、そのためにはどのようなハード整備が必要か議論するべきだ。

かわまちづくり制度では、江別ならではの独自性も評価のポイントになってくる。視点を広げ、この駅前を含めた全体的なまちについて、さらには野幌エリアのE B R I やリボンも含めてオール江別の規模で考えて議論していく場が、このかわまちづくり協議会だと認識している。

移設候補地に係る意見を用紙に記入する際、誰がどのように活動するのかを含めて考えた上で、この紙を提出しなければ、意味が薄れてしまうのではないかと考えている。

○小篠会長

重要な指摘である。この意見の提出用紙については、この候補地ではどのような活用が考えられるのか、堤防整備における旧岡田倉庫移転のメリットを含めて書いていただくことを提案していただいた。かわまちづくり計画案を検討する際の有効な手段と考える。

「旧岡田倉庫利活用ワーキンググループの設置について」

事務局より資料3（6）を説明

【質疑】

○商工労働課長

ワーキンググループは「江別市かわまちづくり協議会設置要綱」第7条より、協議会委員の中から構成することとなっており、事務局案としては小篠委員、鴻野委員、高橋委員にお願いしたい。

（異議なし）

○小篠会長

グループ長及び副グループ長は、会長が指名することとなっており、グループ長は高橋委員に、副グループ長は鴻野委員にお願いしたい。

（異議なし）

○商工労働課長

参加を求める団体等として、これまで旧岡田倉庫を管理・運営してきた「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」、また、堤防工事に対し、市に要望書を提出した「江別市街地自治会連合協議会」を考えている。

○林委員

2つの団体について異議はない。

加えて、誰がどういうシーンを創っていくかワーキンググループで議論していくことが大事であり、これまで活動してきた方や、想いを持っている方たちに幅広く参加してもら

うことがいいと考えるため、「ミズベリング江別」にも参加を求めたい。ほかにもこのエリアで活動している方がいるので、フランクな場でいろいろな議論ができる環境づくりを工夫してはどうか。

○藤原委員

私は公募で市民委員に選ばれてこの場にいるが、地域には、私よりもこのまちを想っている人がたくさんいる。どのようなことが行われていくのか知らず、不安を感じている人も多いため、ワーキンググループは、特定の団体だけではなく、誰もが参加可能で意見交換を行える形で開くことはできないのか。あのまちをこれから運営していくのは、住んでいる人たちである。条丁目に限らず、様々な方が関われるようなワーキンググループを開催することを要望したい。

○商工労働課長

市でも広い意見を求める場を設置したいという想いはあるため、協議会で設置して意見をいただくワーキンググループ以外にも、そういった場の開催の可能性を探りたい。しかし、今回は、協議会の場で諮るテーマに沿って意見をいただく方を想定して提案した。

地元の方から質問を受け、説明できる場については、排除するものではない。

○小篠会長

協議会の中で出た意見は尊重すべきであり、なるべく沿った形で考えていきたい。

○内田委員

私は地元住民の代表という立場で委員になった。私の知る限り、地元住民で一番多い意見は、本体の堤防工事を早くしてほしいということである。長く住んでいる方は昭和56年の水害のイメージが残っており、また、2016年の空知川の決壊を映像等で見て、ゲリラ豪雨で堤防が決壊することへの危機感を持っている住民が多い。かわまちづくり協議会でハード面やソフト面について議論することは大事だと思うが、地域住民が一番望んでいることは、本体の工事を早く行い、地域の安全を確保してほしいことである。その上で、のまちづくりではないかと思っている。多くの意見を聞くと、それだけ時間がかかり、いろいろな意見も出る。そのような意見を取りまとめた後で国に申請して、初めてかわまちづくりの支援をいただくとと思うが、議論をすることが大事であると同時に、市民を不安にしていることも大変重要なことである。

私はワーキンググループはこの8人の委員でいいのではないかと思う。スピーディーに協議会を運営していくことが大事ではないかと考える。

○小篠会長

資料2の3ページにあるスケジュールによると、令和5年度から堤防工事が始まると記載されている。内田委員は、かわまちづくり計画の審議が伸びると、堤防工事の着手に支障が及ぶのではないかと心配されているが、堤防整備の実施は、かわまちづくり計画の作成が前提ではないという認識でよろしいか。

○商工労働課長

堤防整備は、早ければ令和5年度以降の工事着手予定と聞いている。堤防の工事は準備が整い次第進められるものと認識しており、かわまちづくり計画が前提条件ということではない。堤防整備実施前にかわまちづくり計画の申請と登録が間に合えば、計画に沿ったかわまちづくり支援制度が活用できるということである。

○林委員

地元の人に情報が届いておらず、不安に感じている方がいるのではないかと。例えば、ワーキンググループの議論の内容をどこかに掲示しておく手法もある。どのような想いを持っている人がいるのか確認しながら、ワーキンググループの進め方を考えてけたらよい。

○小篠会長

かわまちづくり協議会が立ち上がり、進められていく中で、何かのブレーキになってしまうことは避けたい。ワーキンググループではどのような方に参加していただきどのような方に情報発信するか検討するとともに、ワーキンググループ以外の場も含め、スピーディーな情報提供や意見交換を進める手法も検討したい。

「旧岡田倉庫利活用ワーキンググループの開催日について」

○商工労働課長

開催日は、11月18日をお願いしたい。

○鴻野副会長

協議会は固い場、形式的な場になるので、ラフな形で開催できるワーキンググループの位置付けはとても大事なものだと思える。私もワーキンググループメンバーとして参加するが、地元の方々の想いを重視して考えなければならない。人命を守ることが根底にあり、そのための堤防工事である。そうした前提や過程の中でのかわまちづくりとなると思う。活発な議論になればと思える。

7 その他

○商工労働課長

第2回かわまちづくり協議会は12月21日月曜日に開催したい。

○林委員

最後に確認したい。

私は条丁目エリア全体を見てかわまちづくりのあり方を考えていきたいと思えるが、どの範囲までを対象として意見を出してよいのか。

○商工労働課長

江別駅周辺地区全体、江別小学校跡地等について議論が及ぶこともあると想定している。ただし、本協議会のアウトプットは、かわまちづくり計画とその実施体制等になると考えている。

○政策推進課長

江別駅周辺、江別小学校跡地について補足する。利活用について複数の団体と意見交換している。少し踏み込んだ意見交換についても行っていくべき相手方団体へ申し入れを行っているところであるが、この協議会での議論を妨げるものではない。いろいろなアイデアや提案は聞かせていただきたい。

○小篠会長

境委員からのご発言はいかがか。

○境委員

かわまちづくり協議会委員に応募した気持ちを述べたい。

私は江別市民ではなく、条丁目でカフェを経営している。カフェは、それこそラフに話ができる場で、その中で、外輪船がどうなるのかなど不安を口にされる方がいらっしゃる。憶測が多いと不安になる。私自身は開発局や江別市の方と話をする機会があるが、それでもまだ憶測の部分がある。確かな情報を出していただき、それを、カフェを通して地域住民に伝えていきたい。札幌にないものが江別にはある。江別の外から来るお客様から、歴史的建造物を壊すのかどうか等について聞かれることもある。この協議会で知り得た確かな情報を、私なりに地域住民に伝えていくことが私の役割になるのかなと思っている。

○小篠会長

貴重な意見であると受け止める。

8 閉会